

別紙 「平成31年度 学力向上アクションプラン」

足立区立蒲原中学校 学校長 根本 幸男

		アクションプラン	対象・実施教科	頻度・実施時期	具体的な取り組み内容 <誰が、何を、どのように>	達成確認方法	達成目標 (=数値) <いつまで・何を・どの程度>
1	新規 継続	区学力調査プレテストの実施	全学年 全生徒 国語科・数学科 英語科	1月	全学年全生徒を対象に、国語科・数学科・英語科の授業時間にプレテストを実施し、生徒の自己採点と教員による解説の時間をとる。	区学力調査問題を1月に実施	今年度実施した区学力調査問題で、全員が目標値を超える。
2	継続	放課後補習教室	全学年 定期考査正答率 30%未満の生徒 数学・英語	英語・数学を中心にして適時、 放課後30分	[指導体制] 学年別で教科担当と各学年支援メンバー、蒲原チューター（日体大生）、卒業生高校生ボランティア [取り組み内容・ねらい・目的] つまづきを確認して演習を中心に少人数指導。進度は各個人の習熟度別。 [使用教材] 次へのステップ	定期考査(5月、9月、11月、2月)	全員が前回の特典を超える。
3	継続	朝の「学びタイム」 (補充教室として必要に応じて個別 取出指導)	全生徒 国語、数学 英語 ※補充教室は、 定期考査、小テスト正答率20% 以下の生徒	毎朝始業前 30分(教科は 学年で決める)	・朝の「学びタイム」 [指導体制] 各学級担任と学年副担任（7～8名） [取り組み内容・ねらい・目的] 毎朝、学習内容の復習・確認を行う。漢字の読み、書き・計算・英単語を中心 [使用教材] 漢字・計算・英単語のプリント ・補充教室 [指導体制] 各学級担任と学年副担任（7～8名） [使用教材] 定期考査、小テスト問題	1か月に1回（月末）小テストを実施	毎回の小テストで、全員が正答率70%をめざす。
4	継続	サマースクール	全学年（5教科 の中で編成） 1年数学 正答率50%未 満の生徒と希望 者	夏休み期間中 の7日間	[指導体制] 学年別で教科担当と各学年支援メンバー（高校生ボランティアの活用） [取り組み内容・ねらい・目的] 前半期の内容でのつまづきの解消。少人数指導で前半期の学習内容を定着させる。 [使用教材] プリント教材 [改善点] 対象学年を2年のみを全学年に拡大	サマースクール最終日に確認テストを実施	確認テストで全員の正答率を60%以上
5	新規 継続	家庭学習の習慣化	全学年 全員	毎日	[取り組み内容・ねらい・目的] 自学自習の習慣化をはかるために、家庭学習ノートをもたせ、家庭学習の内容をつけさせ毎朝担任に提出させる。ノート点検し自分で学習することが不得手な生徒には担任や学年担当教員が個別に指導し、必要に応じて課題をだし家庭で取り組ませる。提出がない生徒には放課後居残りをして提出させる。	家庭学習ノートの点検	全学年家庭学習ノートの提出率90%以上 家庭学習の習慣化を家庭学習ノートで確認

	新 継	アクションプラン	対象・実施教科	頻度・実施時期	具体的な取り組み内容 <誰が、何を、どのように>	達成確認方法	達成目標 (=数値) <いつまで・何を・どの程度>
6	継 続 改 善	授業改善 (生徒がまずしっかり考え、互いに学び合う学習の充実)	全生徒 全教員 全教科	年間	<ul style="list-style-type: none"> 全教員の授業観察 (1 単位時間)・事後指導を年 2 回以上実施 ビデオを活用して授業の振り返り及び教員の授業研究に活用) 校内研究(小中連携教育研修)の確実な実施 基本的な指導技術の習得(足立スタンダード、e-講座) 授業中及び学びタイムでの個別指導、反復学習の充実 学力調査の自校採点・分析 (SP 表活用) 個人でしっかり考える時間の確保 学び合い (意見を述べ合う活動、根拠を示しながらの説明、筋道を立てての説明、他者と協同した学習) の取組の充実 言語能力拠点校としての実践 (小グループ学習を中心としたラベルワーク、パネルディスカッション等) も活用 校長による校内巡回時に授業観察を短時間に行い、必要な指導をする。 	1 時間の授業の中で短時間でも小グループで意見交流や学び合い学習など生徒が主体になった授業を実施する。 (教員の自己申告面談時で質問し、取り組んだとする教員を 75%以上にする)	5～7月 (第1回) 9～12月 (第2回) 校長による授業観察を行い、授業観察シートによって個々の教員の達成状況を把握する。
7	継 続	校内研修としての小中連携教育の推進	全教員 全教科	年間 7 回	<ul style="list-style-type: none"> 小学校との接続を意識したシラバス作成 東湊江小・北三谷小との合同研究会(年 6 回+α実施)※+αは各教科の学習指導案検討会。全教科の分科会と全体会を開催、足立スタンダード等による指導技術の習得、指導内容の充実等) 小学校、中学校の授業公開、 生徒による学習支援の実施 (2年職場体験) 小中連携を通して、共通する課題を見出し、その改善にあたる。 (研究主題「主体的に学ぶ児童・生徒の育成～言語活動の充実を通して～」継続。 生徒が主体的に学ぶための 9 年間の発達段階に応じた取組を研究する。 ※すでに作成済の 9 年間の各教科指導計画を基盤とする。 	小中連携教育のまとめのアンケートで、連携ができたと捉える教員を 100%にする。	1 月に研究報告を行う

